# 2年保育4歳児と5歳児の泥団子づくりを覗いてみよう！
# 岡山市立今幼稚園（岡山県岡山市）

**（1）本事例の趣旨**　泥団子作りは、幼児みんなが興味をもつ遊びである。そこで、4歳児5歳児の泥団子作りの過程の違いを鮮明にし、的確な援助をして科学する心を育てていきたい。

## 4歳児

**ねらい**

- ○　砂の感触を味わう。
- ○　友達と同じものを作る喜びを感じ、一緒に遊ぶことを楽しむ。

**幼児の姿**

雨が降った後、園庭には水たまりがいっぱいできていた。幼児は、水たまりに驚き、靴のまま水たまりに入りバシャバシャさせたり、手で泥水をすくったりして遊んだ。

**（2）実践の展開**

**おもしろい**

教師も一緒に参加したり、土の感触が十分楽しめるように時間を確保したりする。

**やってみよう　おもしろそう**

友達と一緒にしている姿や、幼児の気付きなどをしっかり認め、気付いたことが表情や言葉で表わせるようにする。

**丸くなったよ**

土を手でにぎっていると、次第に丸くなることに幼児と共に喜び合うようにする。

## 5歳児

**ねらい**

- ○　土や砂の感触を味わい、性質の違いに気付く。
- ○　気付いたことや発見したことを友達に伝えながら、目当てをもって繰り返し遊びを楽しむ。

**幼児の姿**

友達と一緒に砂場の砂を使って、形のよい団子、大きさの違う団子、見た目のきれいな団子など、自分の納得する団子を作ろうとする姿が見られた。その後、園庭のいろいろな場所の砂や土を使って泥団子作りが始まった。

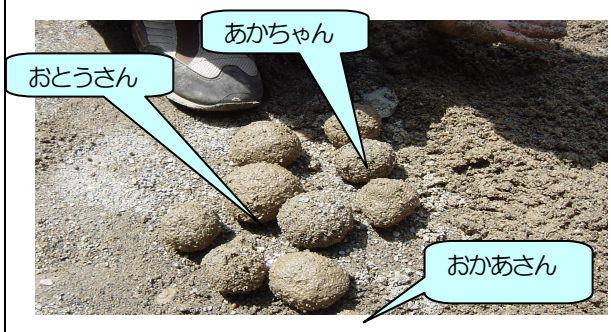
**発　見**

さらさら砂の発見を、他の幼児にも知らせて泥団子作りに使っている姿を認める。

いろいろな所で、自分の作りたい団子に合った砂を探す姿や、友達に刺激を受けてじっくり取り組む姿を認める。

**満　足**

**いろいろなのができたよ**




大きさの違う団子ができる不思議さに共感したり、作り方に気付かせたりする。

**その後、いろいろな場で、年長児の団子を作る様子をまねて作るようになった。**

〈考察〉

○雨上がりや晴天の時など、機会を逃さず体験できるようにしたことで、砂の感触が十分楽しめた。

○友達と一緒にすることが楽しいと感じられるように教師も仲間になることが大切である。

○一人一人の取り組みをしっかりと認め、自信につなげるようにするとさらに意欲的に取り組めた。

作る過程での工夫や、土や砂の違いに気付きいろいろ試しながらの泥団子作りを認める。

**その後、「手で 10 回擦るとこれだけ光る。」「こっちは 100 回擦ったからこんなに光っている。」と出来上がった団子を光らせる姿も見られた。また、手や葉っぱで磨き、いろいろ確かめる姿も見られた。**

〈考察〉

○砂や土の環境を身近に整えたことで、好奇心を継続させながら、感触、性質などに気付くことができた。

○友達同士で見せ合い工夫したところを知らせる機会をもったことで刺激し合って遊ぶことができた。

○幼児が、試したり工夫したりできる時間を確保したことで、目当てをもち繰り返し遊ぶことができた。

**（3）考察**

○砂や土の水量で感触が違うことや、きめの細かさ粗さ粘りなどに気付いたり、出来上がった団子の色や固さ輝きなどに目当てをもって取り組んだりした。このことは、友達同士による刺激が大きいと思われる。

○4 歳児は、教師や友達と一緒に楽しみながら土や砂の感触を味わえる援助をすることが大切である。5 歳児は、自分なりの目当てをもって工夫し友達と競いながら楽しめる援助をしていくことが大切である。

○幼児の遊びだけにとどめず、本を見たりインターネットで検索したりして、今までとは違った泥団子作りに期待をもたせ、目当てをもって泥団子作りができるようにしていきたい。

**（4）今後の活動計画**

**4 歳児**は、機会を逃さずいろいろな砂や土に触れて遊び、感触が十分味わえるように繰り返し時間を確保していきたい。また、作った泥団子を使ってのごっこ遊びを通して、友達と一緒に遊ぶことが楽しいと感じられる経験を豊かにしていく。

**5 歳児**は、自分の作った団子に目当てをもち、磨いたり比べたりできるように置き場を確保すると共に、友達と競い合える機会ももつようにする。また、じっくりと遊び込める時間を確保する。本や情報機器を使って今まで以上の目当てをもって泥団子作りができるようにする。

みどころ

**毎日毎日続けられる泥団子作り。「毎日同じ経験ではない」「年齢や発達、経験によって、幼児の気付くことや工夫することは違う」ということは分かっていても、保育者の援助や指導が変わらないことがあります。しかし、こうして目的を持って幼児の姿を見取って考察することで、必要な指導が見えてきます。4 歳児には繰り返し経験できる時間を確保し、5 歳児にはじっくり取り組める時間の確保が大切であることが、泥団子作りの姿からも捉えられています。情報の交換も 5 歳児は細かなことまでことばにして発見や工夫の情報を共有しています。4 歳児はそうした 5 歳児の姿をモデルにしています。5 歳児には、幼児同士だけでは得られない情報も貴重な環境になることが分かります。**